

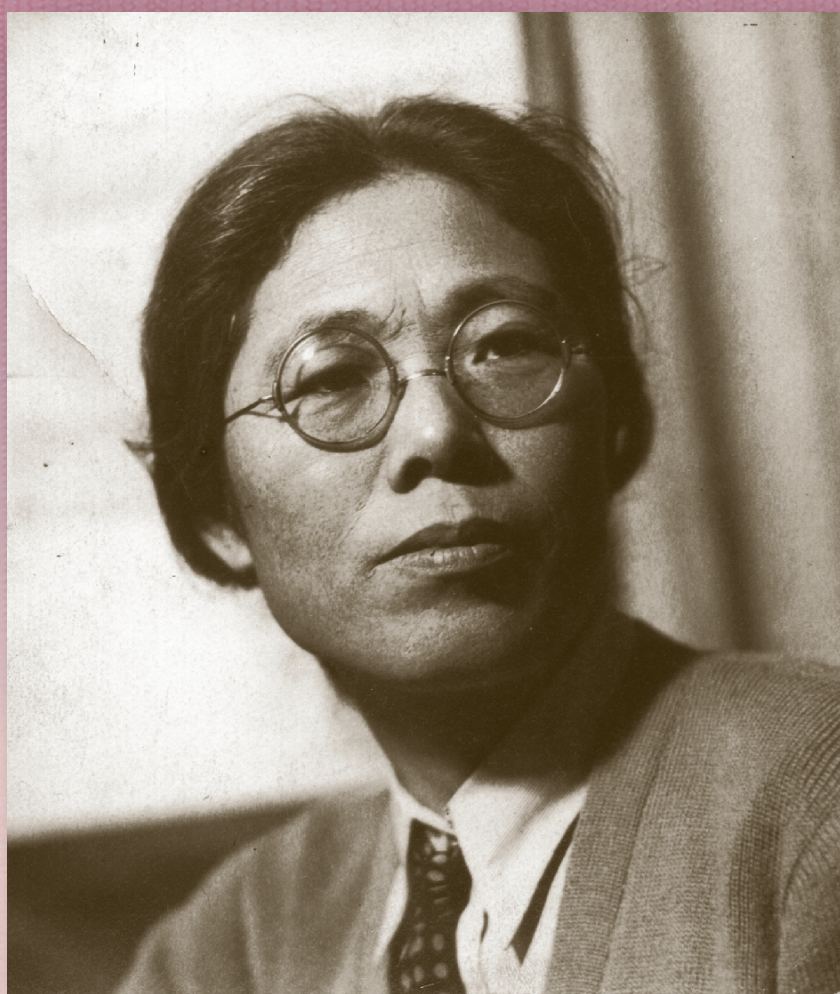
戦前から終戦後まで、女性たちの運動とその姿を生々しく伝える

オンライン版

市川房枝資料 1905-1946

原本：公益財団法人 市川房枝記念会女性と政治センター 所蔵

解題：井上直子（法政大学ほか）



公益財団法人 市川房枝記念会女性と政治センター提供

戦前、日本の婦人参政権運動を牽引し、戦後は参議院議員を5期25年間務め、女性運動に比類のない足跡を残した市川房枝（1893-1981）。本資料は、戦火の中も市川の手によって守られ、市川房枝記念会女性と政治センターに残された、膨大な原資料のオンライン版である。1919年に平塚らいてうらと創立した「新婦人協会」に始まり、戦後の「新日本婦人同盟」（1945年創立）に至るまで、戦前からの運動と女性たちの姿を生々しく伝える、唯一無二の資料群である。

社会福祉史、教育史にもおよぶ第一級の資料群

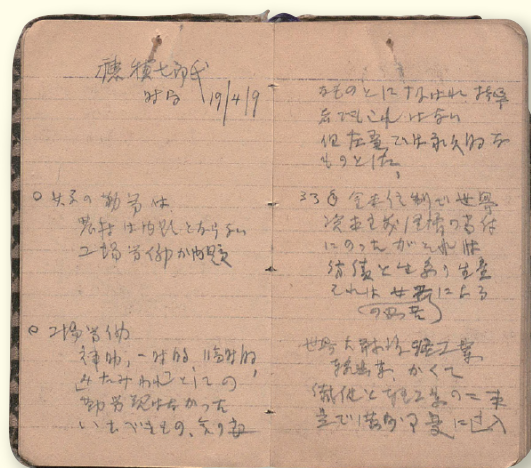
関西学院大学教授 今井小の実

20年以上も前のこと、博士論文の研究資料を集めるために「婦選会館」をたずねた。育児中の身にとって、二泊三日という調査旅行の計画は家族を巻き込んでのかなり無理をしたものだった。社会福祉を学ぶ院生が市川房枝の資料を探しにきたのには理由がある。市川が平塚らいてうに誘われて創設時の理事となった新婦人協会(1919-22)は、婦人参政権をめざすとともに、平塚が前年より与謝野晶子らと繰り広げた母性保護論争の母性・児童保護の思想を具現化するという目的ももっていたからである。会館の近くに宿をとり、最大限、その期間を利用しようと考えたが、初日の段階で、保管資料が膨大でしかも整理中だと知った。まだピンポイントに必要な資料を探し出す能力もなく、ただ会館のなかに眠る豊富な資料群を想像し、圧倒され、この行程では到底追いつかないと一種絶望に近い感情を抱きながら、かろうじて目的の史料だけ入手して帰ってきたのを覚えている。その資料群が、このたび公益財団法人市川房枝記念会女性と政治センターの協力により、先に刊行されたマイクロフィルム版に新たに整理された資料も加え、オンライン版として出されるという。当時の状況からみれば、まさに夢のような話だ。

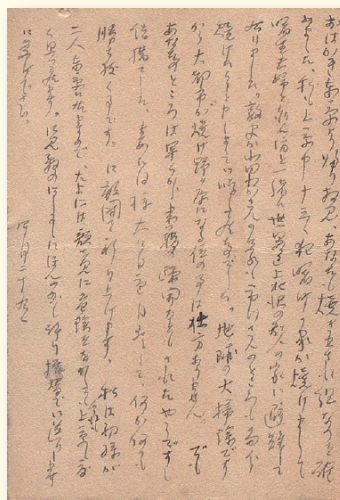
今回、追加された史資料の量的な多さにも驚くが、その質的な価値にも目を見張るものがある。たとえば原稿・草稿メモ類や自筆書簡、ノート・覚書類など市川自身の

手による一次資料、多種多様な組織や多彩な人的ネットワークがうかがわれる来信類などである。市川の的確な判断によって戦禍を逃れた戦時期の貴重な資料もある。個人的に興味を惹かれるのは、新婦人協会を離れ、渡米した市川の滞在先ニューヨークでの「手帳(ニューヨーク在住 1923年10月)」として「日記類」に分類されている資料だ。そして一研究者として重要だと思うのは、「市川房枝伝記資料」として整理された資料群である。当時、膨大な資料を前になす術のなかった私が頼ったのは、正確な記録をもとに克明に記された『市川房枝自伝一戦前編一』(新宿書房、1974年)であったが、そのソースとなった資料が集められている。その反証が可能になるだけでなく、市川が何を捨て何を残して自伝として世に送り出したのか、その内面までが分析可能となる。

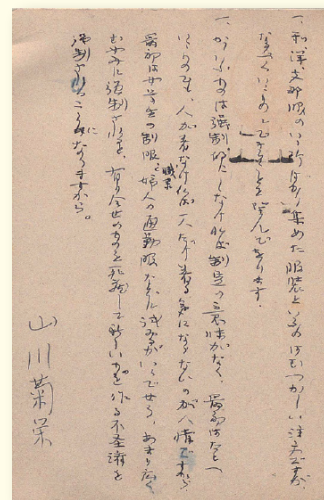
今回、公刊されるデータベースは政治史、女性史、経済史、労働史のみならず、社会福祉史、教育史にもおよぶ第一級の資料群である。しかも当時の私のように育児中であっても、また膨大な資料であっても、その場に行かずともすぐにピンポイントでほしい資料が入手できるという利便性つきだ。これによって、市川につながるあらゆる分野において、その歴史が塗り替えられる研究が誕生することに期待したい。



手帳「穂積七郎氏、時局、19/4/9」



奥村明(平塚らいてう)発、市川房枝宛はがき(昭和20年4月29日)



山川菊栄発、月刊 女性展望宛はがき(昭和15年11月)

「女性の歴史」が諦観を突き動かす

京都女子大学学長 竹安 栄子

2022年日本のジェンダーギャップ指数（GGI）は116位（146ヶ国中）と、東アジア・太平洋州で最下位であった。近年、報道でもしばしばGGIが取り上げられるようになったとはいえ、日本が男女格差の解消で世界に大きく後れを取っている事実を認知している人はまだまだ少ない。中でも政治領域は世界で最低レベルであるとの認識はほとんどない。多くの女性たちはとりわけ社会に不満も抱かず、漠然と不平等感を抱いていたとしても、「仕方ない」「世の中こんなもの」という諦観がはびこっているように感じられる。女性と子どもの貧困、コロナ禍での女性の失業や自殺率の増加などが、根底では日本の政治につながっているという認識がなかなか醸成されない。

考えてみれば、教科書で「婦人参政権獲得運動」を言葉として学習しても、それが包含している女性たちの活動や生きざまを学校教育で学ぶ機会はなかったはずだ。そもそも近現代の政治史には膨大な研究と資料の蓄積があるが、その中に女性を一人称とした資料はどれだけあるのだろうか。

1946年に誕生した39名の女性代議士の一人「田中たつ」を取り上げた論稿を2019年に執筆した。働きながら助産師・看護師資格を取得し、鳥取で長年助産師として活躍した田中たつが、お産の現場で見聞した女性たちの劣悪な状況を解決しようと立候補した。それに影響を与えたのが市川房

枝である。市川は、終戦直後から全国を行脚して参政権行使の重要性を説いて回った。深刻な食料不足の中にあっても、市川の演説を聞くため「紅唇を結んで身じろぎもしない若い婦人」や「熱心に傾聴する老婆」が会場を埋め尽くした。この論稿を読んで学生たちは、素直に感激し、市川房枝や田中たつの行動に「勇気を得た」「私も行動しなければ」と感想を寄せてくれる。100名を超す受講生の多くが「意識が変わった」と表明している。固有名詞で語られる歴史には、学生たちの心を動かす力が宿っている。

今回のオンライン版の発売で利用の簡便性が一段と向上するだろう。政治学だけでなく、社会学や女性史研究など多様な分野からの利活用が進むと期待が膨らむ。資料には市川の来信類や日記、手帳なども含まれている。田中たつと市川との関係を確認できたのも、市川房枝記念会女性と政治センターに残されていた田中から市川に宛てた私信と市川の手帳であった。岩盤のごとき体制に果敢に立ち向かい、粘り強く活動した市川の姿の再構成が可能になるだろう。世界でも最低レベルの女性議員率の日本に、世界で最高水準の女性議員率を達成した過去があったこと、そしてその背後に戦前からの市川の活動があったことを一人でも多くの女性が知ることによって女性の意識が覚醒される日が来ることを願ってやまない。

焦土の中で私達に手渡されたバトン

駒澤大学教授 村井 良太

本資料は残された経緯、その資料的価値から大変貴重である。刊行を心から喜び、様々な関心を持つ多様な世代の人々によって広範に活用されることを願う。

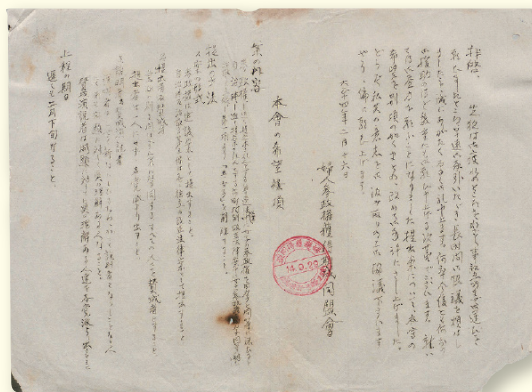
市川房枝は1893年に生まれ、戦前の婦人参政権獲得運動家、戦中の言論人、戦後は1981年に87歳で亡くなるまで長く参議院議員を務めた。本資料は彼女の前半生を網羅している。1919年、平塚らいてうの誘いを受けて26歳で新婦人協会創立に参加し、アメリカでのアリス・ポールら女性運動家との交流を経て、婦選獲得運動に邁進する。政党政治下でたぐり寄せた婦人参政権は満州事変で後退、以後、戦争の時代に平和回復を願い、女性の境遇を護ろうと大政翼賛会でも日中友好でもまがい物を本物にしようと努めた。占領下では公職追放を受ける。彼女の活動は一貫して仲間がいる女性運動である。資料はその共同活動の絆の跡であり、市川は空襲が激しくなる中、強い意思でトラック2台分の本や資料を疎開させた。それは焦土の中で私達に手渡されたバトンである。

そして遺された資料を守ってきた人々がいる。市川らの遺した資料はマイクロフィルム版「婦人参政関係史資料Ⅰ」

として日本図書センターからまず刊行された。今回、日記など重要な新資料1000件以上を収録し、全体では3700件以上に及ぶ。まさに完全版と言えよう。これら膨大な資料の価値は女性史や社会運動史上では一目瞭然、文化史、戦争史、帝国史、外交史、政治史、地方自治史にとっても不可欠である。政治史では従来国家総動員の時代との関係が注目されてきたが、1920年代の自由主義的な政治の挑戦と可能性、世界との結びつきを色鮮やかに伝える。さらに、本資料が搭載される「近現代史料データベース」では、既に「後藤新平文書」や「楠田實資料（佐藤栄作官邸文書）」など多数の史資料が収録されており、それらとも横断検索ができる。それは社会や時代の全体性を示してくれるだろう。

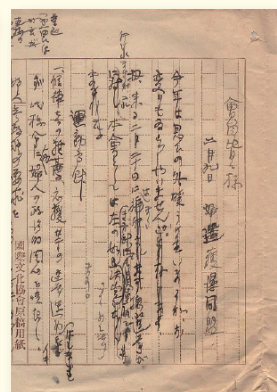
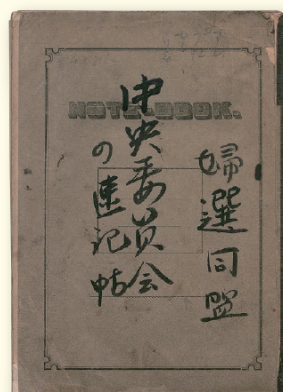
本資料はワールド・ヒストリー／グローバル・ヒストリーにも大きく寄与する。オンライン版であれば世界中の手元で同じ資料を簡単に見ることができる。歴史はすべてグローバル・ヒストリーである一方、英語圏の過大評価を再拡大させかねない危うさもある。本資料はより調和した世界への取り組みを支える一灯である。

婦人参政権獲得期成同盟会

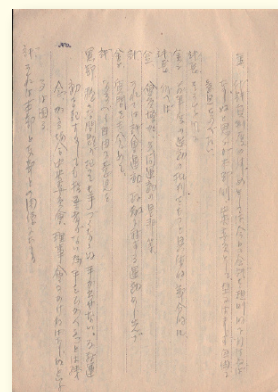


婦人参政関係法案の提出案について希望条項
(大正14年2月16日)

婦選獲得同盟

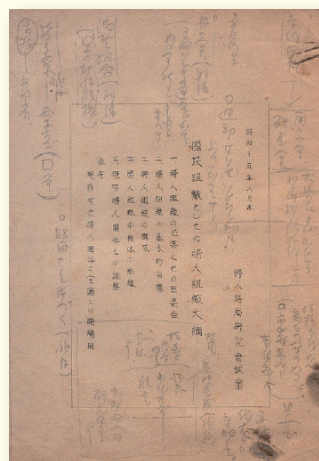


会員宛運動方針草稿
(昭和7年2月9日)



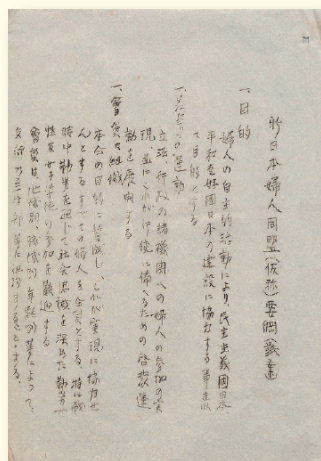
第十一年次総会記録

婦人時局研究会



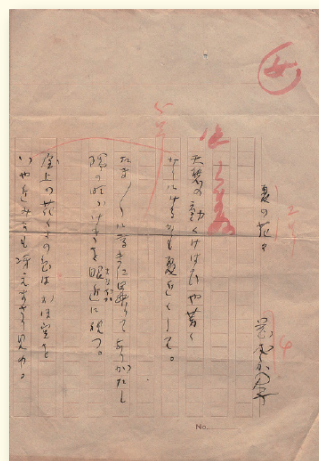
国民組織としての婦人組織大綱
(婦人時局研究会試案)

新日本婦人同盟

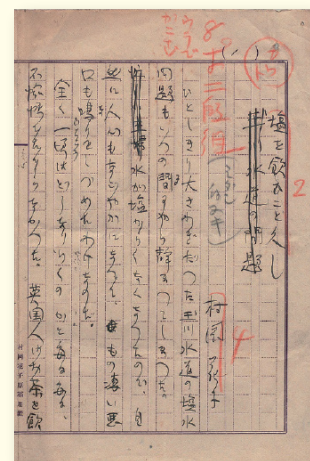


新日本婦人同盟(仮称)要綱(試案)

『婦選』原稿類



岡本かの子「夏の花々」



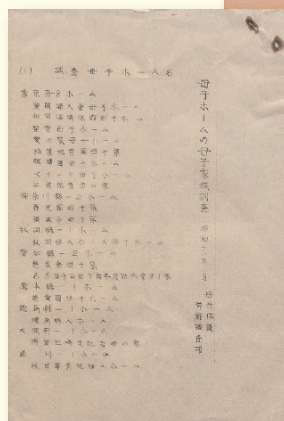
村岡花子「塩を飲むこと久し」

買売春問題

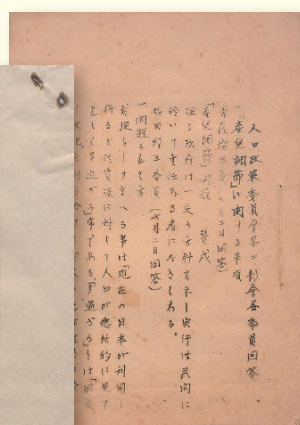


左) (船田中、川島正次郎、大野伴睦、安藤正純、前田房之助、一松定吉、武知勇記)
右) 売笑婦二関スル調査 (東京市統計課 吉田英雄)

保健・衛生／社会福祉

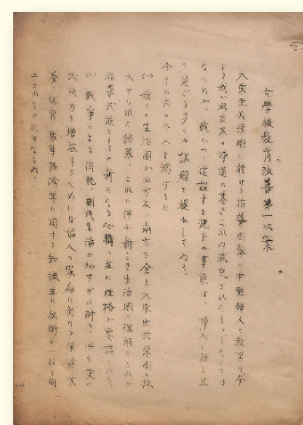


左) 母子ホームの母子家族調査 (母性保護連盟、昭和11年1月)



右) 人口政策委員会第二部会各委員回答「産児調節」に関する事項

教育

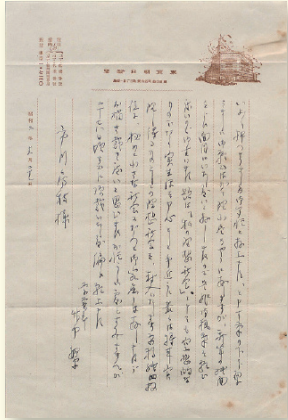


女学校教育改善第一次案

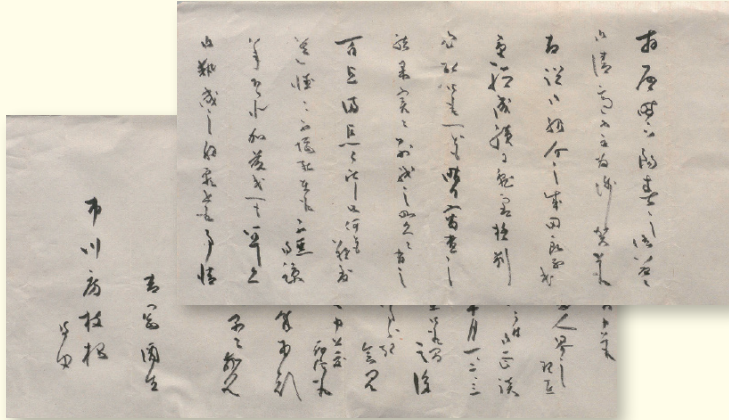
婦選運動から戦時期の国策資料まで、多様なテーマの資料で構成

書簡・来信類

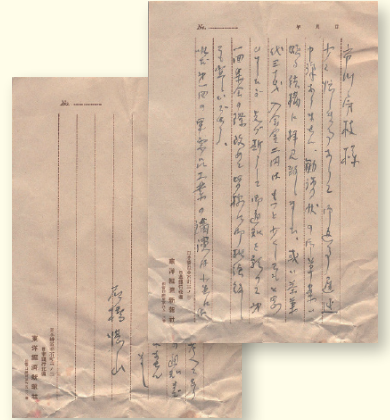
平塚らいてうをはじめ、山川菊栄、堺利彦などの運動家から、津田梅子、与謝野晶子、高群逸枝、岡本かの子、林芙美子、深尾須磨子ら女性教育者や作家・文学者、吉野作造、石橋湛山、竹中繁、尾崎行雄など知識人やジャーナリスト、政治家まで、多彩な人物の来信を収録



竹中繁発、市川房枝宛書簡
(昭和2年12月24日)

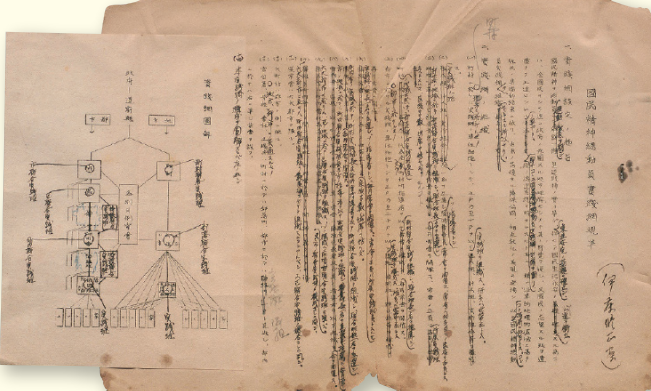


吉岡弥生発、市川房枝宛書簡（昭和8年3月29日）

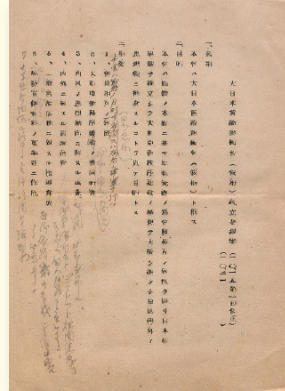


石橋湛山発、市川房枝宛書簡
(昭和9年10月23日)

国民精神総動員・大政翼賛関係



国民精神総動員実践規準（伊藤修正案）



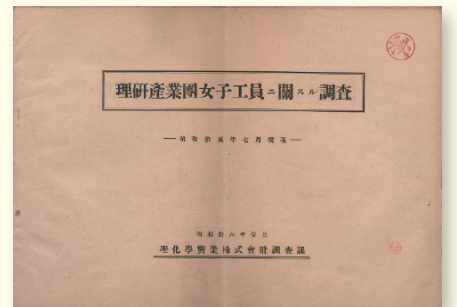
大日本言論報国会（仮称）
設立要綱草案

国策紙芝居

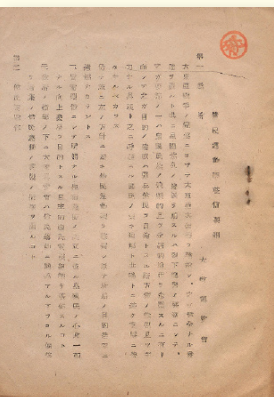


「日独伊同盟 若い国々」
(日本教育紙芝居協会、昭和15年12月5日)

労働問題



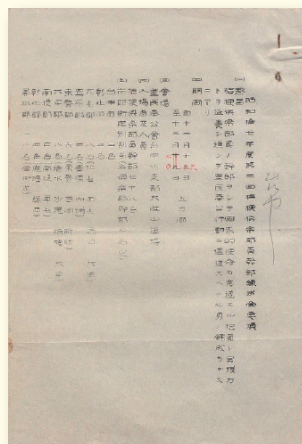
中国・台湾旅行収集資料



健民運動網整備要綱
(大政翼賛会)

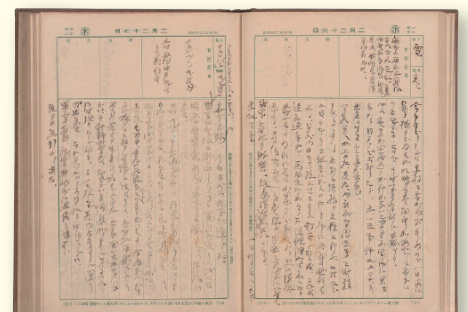


『婦人第一線』第3号
(昭和14年8月12日)
上海時局婦人会



昭和十七年度第二回
桔梗倶楽部員幹部錬成会要項

市川房枝日記



昭和11年日記（二・二六事件当日）

オンライン版 市川房枝資料 1905-1946

原本：公益財団法人 市川房枝記念会女性と政治センター所蔵

解題：井上直子（法政大学ほか）

価格 ¥1,800,000 (税別)

プラットフォーム：J-DAC ジャパン デジタル アーカイブズ センター

完全買切型（ご購入後のプラットフォーム利用料、年間維持費用は不要です）

<1ヶ月の無料トライアル受付中、お申し込みは kenkyushien@maruzen.co.jp まで>（お申込みは学術機関に限ります）

内容構成 / 分売価格

第一部 婦人参政権獲得期成同盟会、婦選獲得同盟本部資料

価格 ¥400,000 (税別)

1924年「婦人参政権獲得期成同盟会」として設立（翌年「婦選獲得同盟」に改称）され、婦選運動の中核的立場を担った婦選獲得同盟の本部資料群。事務局日記や来信類、「全日本婦選大会」関係の資料などを収録。前史ともいえる「新婦人協会」や、「日本婦人参政権協会」「婦人参政同盟」の資料も含む。

第二部 婦選獲得同盟委員会資料

価格 ¥400,000 (税別)

中央委員会の報告・記録類や総会資料に加え、政治教育委員会、対議会運動委員会、会員委員会など、婦選獲得同盟に置かれた各委員会の資料で構成される。東京支部をはじめ、秋田・愛知・京都・金沢支部など、地方支部の資料も充実。

第三部 『婦選』『女性展望』資料、婦人時局研究会・婦人問題研究所資料

価格 ¥300,000 (税別)

婦選獲得同盟の機関誌として1927年に創刊された『婦選』（1936年に『女性展望』に改題）関係資料や、婦選獲得同盟の解消後、市川の活動の主軸となった婦人時局研究会および婦人問題研究所の資料を収録する。終戦後間もなく結成された「戦後対策婦人委員会」や、市川房枝を会長として設立された「新日本婦人同盟」の資料も含む。

第四部 一般婦人団体・組織資料、主題別資料（1）

価格 ¥300,000 (税別)

全関西婦人連合会や日本基督教婦人矯風会、日本婦人団体連盟、大日本婦人会など各種婦人団体の資料、国際連盟東京支局・ILO東京支局、大政翼賛会などの、その他団体・組織の資料を含む。さらに、愛国婦人会などの軍事援護事業関係や国民精神総動員関係、選挙粛正運動など主題別の資料も収録する。

第五部 主題別資料（2）、市川房枝関係資料

価格 ¥400,000 (税別)

第四部に続き、主題別に整理された資料を収録する。町内会・隣組や配給問題など戦時下の生活を伝える資料類から、廃娼問題や母性保護運動、被服関係や東京市政関係、労働問題など多様な資料で構成される。あわせて、市川の日記・手帳・ノート・覚書、原稿・草稿類や中国・台湾旅行時に収集した資料も収録する。

近現代史料データベース 横断検索が可能です

オンライン版 後藤新平文書

全四部 価格 ¥1,560,000 (税別)

第一部 水沢時代～台湾民政長官時代（1）

価格 ¥400,000 (税別)

第二部 台湾民政長官時代（2）～震災内閣時代

価格 ¥400,000 (税別)

第三部 在野時代～薨去関係・伝記編纂会資料

価格 ¥400,000 (税別)

第四部 書翰集

価格 ¥360,000 (税別)

オンライン版 友邦文庫

全四部 価格 ¥1,800,000 (税別)

第一部 総督府予算書等（帝国議会説明資料）・渡辺忍文書

価格 ¥450,000 (税別)

第二部 朝鮮総督府本府・地方庁資料

価格 ¥450,000 (税別)

第三部 中央朝鮮協会他各種団体・植民地期経済産業資料

価格 ¥450,000 (税別)

第四部 引揚・在外資産関係資料

価格 ¥450,000 (税別)

オンライン版 二・二六事件 東京陸軍軍法会議録

全二部 価格 ¥600,000 (税別)